

【岩成台西小学校】小中学校の適正な規模等に関する意見交換会 議事録

1 開催日時

令和7年10月3日（金）午後6時30分～午後7時45分

2 開催場所

岩成台西小学校 体育館

3 参加者数 19名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	湯浅 公
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 議題

岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

5 会議資料

小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について（岩成台西小学校）

午後 6 時 30 分 開会

1 開会

教育部長あいさつ

2 議題

- (1) 岩成台中学校区における小中学校の適正規模及び適正配置に向けた検討について

【事務局】

<本市の基本的な考え方とこれまでの取組について>

- ・児童生徒数は全国的な少子化の進展に伴い減少を続けており、本市においても、同様に減少していくと推定される。子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進める必要がある。
- ・学校規模の区分について、本市では今年 2 月に「小学校・中学校の適正規模の基本的な考え方」を策定し、その中で、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から学校規模の区分を設けた。
- ・クラス替えが可能であれば、児童生徒同士の間関係に配慮した学級編成ができることや、集団の中で社会性を身に付けたりできるなど、子どもたちにとって多くのメリットがあることから、本市では、小学校、中学校ともに 1 学年に 2 学級以上あることが必要であると考えている。
- ・どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、適正規模の確保に努めるように検討することとしており、「坂下」「藤山台」「高森台」「石尾台」「岩成台」の 5 つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、令和 7 年 4 月から 5 月にかけて、対象校区の小中学校 17 校の P T A 役員の皆様への説明と意見交換を実施した。その後 5 月から 6 月にかけて児童生徒やその保護者の皆様に、6 月から 7 月にかけて、地域にお住まいの方を対象にアンケートを実施した。

<児童生徒数推計について>（資料 1 ページ）

- ・昭和 52 年度から令和 13 年度までの、岩成台西小学校の児童数の推移は、昭和 60 年度の 734 人をピークに、令和 13 年度では 71.9%減少の 206 人と推計される。

- ・岩成台西小学校は、今年度、児童数 295 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度からクラス替えができない学年のある「小規模」になり、令和 22 年度では全学年でクラス替えができない「過小規模」とであると推定される。
- ・岩成台中学校は、今年度、生徒数 235 人、7 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数は減少し、令和 22 年度では「過小規模」とであると推定される。
- ・岩成台小学校は、今年度、児童数 201 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度から「過小規模」となると推定される。

<アンケート結果について>（資料 2～5 ページ）

- ・「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、岩成台西小学校では、「賛成」の方の割合が保護者で 56.3%、地域の方で 69.7%となっている。

「反対」の方は、保護者で 7.9%、地域の方で 24.2%である。反対の理由として、保護者の方は「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響」を多くの方が心配している。岩成台西小に岩成台小を加えた、岩成台中学校区の小学校「全体」の結果も、岩成台西小と概ね同様の結果となっている。

- ・先ほどの質問に対して「賛成」と回答した方のうち、「ご自分の子どもが通う学校、またはお住まいの地域の学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて」では、岩成台西小学校、全体ともに「賛成」の割合が、保護者、地域の方のいずれも高い比率となっている。賛成の理由として、保護者の方は「子どもの人間関係に良い影響を与えるから」や「集団活動における適応能力が磨かれるから」と考える方が多く、地域の方は「子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れるようになるから」と多くの方が考えている。
- ・学級数については、保護者の方、児童生徒ともに 1 学年に複数学級が望ましいと考えている方が多く、クラス替えを契機に新しい人間関係を構築することができると考えている。

小学生の保護者では、「複数学級を望ましいと考えている人」は 96.8%、小学生では、「複数学級が望ましいと考えている児童」は 85.9%となっている。その中で、岩成台西小学校を個別に見ると、複数学級を望ましいと考えている保護者の方は 98.3%、児童では 95.5%となっている。

- ・「学校生活において重要と思うこと」では、児童生徒は、「クラスが変わって、新しい友達がたくさんできること」や「運動会などの行事でクラスに活気があること」が大事だと考えている。

地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」が重要と考えている。岩成台西小学校の地域の方は、「多くの子どもたちによる人間関係の広がり」や「子どもたちの登下校」に加え、「子どもたち一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」も多くの方が重要と考えている。

- ・「魅力ある学校づくりを進めるため、学校の規模や配置を見直す場合に重要と思うこと」では、保護者の方は、「子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育」や「子どもの人間関係に広がりがあること」が重要と考えている。

地域の方は、「子どもたちがより良い教育環境で学校生活が送れること」をとっても多くの方が重要と考えている。

- ・「学校の適正規模等の取組において心配なこと」では、保護者の方は、登下校に関して心配と考えており、登下校については、安全性や時間が重要と考えている。

＜本市の考え方について＞（資料 6 ページ）

- ・「児童生徒数推計」から、令和 22 年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」とであると推定される。
- ・「アンケート結果」からは、学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級を希望する意見が多い。保護者は、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな教育や子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は、クラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は、子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。一方で、学校の規模や配置を見直す場合に、多くの方が登下校に関し心配している。
- ・「地域の特性」として、ニュータウン地区内で、岩成台中学校区は藤山台中学校区、高森台中学校区と接しており、岩成台中学校は、直線距離で、藤山台中学校から約 0.9 km、高森台中学校から約 2.3 km の距離に位置している。
- ・「児童生徒数推計」「アンケート結果」「地域の特性」を踏まえ、本市としては、岩成台中学校区の小中学校が適正な規模や配置となるように、具体的な検討を進めていきたいと考えている。

また、検討にあたっては、次のことに留意をする。

- 1 岩成台中学校については、「過小規模」になると推定されること、また、小学校については、各小学校の児童数推計から、児童数の減少が今後も続くと推計されることから、隣接する中学校区と合わせた検討も視野に入れる必要がある。

- 2 登下校の安全性や時間を心配する方が多いことから、バスの利用など通学手段についても検討する必要がある。

3 意見交換

【質問 1】

学校規模の適正化というのは、学校統合を考えているということか。

【事務局】

学校規模の適正化の取組については、統合を含めて様々な手法があります。今回の意見交換会で皆さまから様々な意見をいただき、今後の検討の参考にさせていただきたいと考えています。

【質問 2】

バスの利用の話があったが、バスの安全性についてはどう考えているか。

【事務局】

バスの導入については、これから検討していくことになります。導入の検討に合わせて、安全性についても検討していきたいと考えています。

【質問 3】

学校規模の適正化の取組について、統合以外にどんな手法があるのか。

【事務局】

統合以外には、通学区域の変更があります。しかし、ニュータウン地区全体で子どもの数が減っている中で、規模の小さな学校が隣接する場合、通学区域の変更では根本的な解決にはならないと考えます。

【質問 4】

統合については、通学の距離は長くなるものの、友達が増えるなどのイメージをもっている。しかし、通学区域の変更があると、地域によっては、別の校区に行くこともあり得る。友達がいなくなったりする場合も考えられるので、子どもたちの気持ちも重要視して考えてほしい。

【事務局】

子どもたちのつながりはもちろんのこと、保護者や地域のつながりも大事にする必要があると考えています。地図上だけでなく、地域単位で考えるなどの配慮をしっかりとしていきたいと考えています。

【質問 5】

岩成台中学校でも説明会があったと聞いたが、小中一貫校について検討をしているのか。

【事務局】

岩成台中学校についても将来、過小規模になると推定されますので、隣接する中学校区を含めた検討も必要になると考えています。小中一貫校については、他市でも事例がありますので、皆さまと協議する中で最適なものを選択していきたいと考えています。

【質問 6】

令和 22 年度まで人口推計があるが、先のことのように感じる。令和 22 年度まで推計した理由を聞きたい。

【事務局】

学校の適正規模等については、検討から開校まで長い時間を要する取組だと思っています。人口推計についても可能な限り先の状況を見据えて検討する必要があると考えて、令和 22 年度まで推計値を出しました。藤山台小学校では統合後、想定以上に子どもの数が減り、規模が小さくなってしまったこともあるので、先を見据えて検討する必要があると考えています。

【質問 7】

個人的にこの令和 22 年度の推計値はショック療法のように感じてしまう。

各地域で説明会を開催して、多くの方の意見を直接聞くことは良いことだと思うし、今後、学校に関係がある若い世代の方の意見もよく聞く必要がある。

1 学級 35 人は多いと感じているので、春日井市独自の基準で 1 学級あたりの人数を変えることはできないか。

【事務局】

アンケートでは、公私立保育園や私立幼稚園に協力していただき、未就学児の保護者の方からも回答をいただいています。また、意見交換会の日程についても、同様に園に協力いただき、広く周知しました。

1 学級あたりの人数については、国・県の 1 学級の編制基準があるため、春日井市だけで 1 学級当たりの児童数を変更しても、県から配置される教員の数が足りなくなります。教員の不足や、市の予算上の課題もあり、市独自の設定は難しいと考えます。

【質問 8】

他市では、働いている親が安心して子どもを預けられる環境をしっかりと整備することで、子どもの数が増えている例もある。

春日井市も働く子育て世代のため、様々な施策を実施することを考えているか。

【事務局】

市教育委員会としては、子どもの教育環境の向上を一番の目的と考え、今回の取組をご説明させていただいています。

春日井市は子育てしやすいまちとして、18 歳までの子ども医療費の無償化、放課後児童クラブやなかよし教室の実施、子どもの屋外・屋内の遊び場の整備などを行ってきました。その他にも、学校給食費の食材費高騰分を市で負担し、保護者負担分を据え置くなどの支援を行っています。また、ニュータウン地区の活性化の施策を実施する部署もあります。市としては、これからも多角的に議論していきたいと考えています。

【質問 9】

教育委員会ではどれくらいのスケジュールで進めていこうと考えているのか。

【事務局】

統合についての具体的なスケジュールは決まっていません。いつ皆さまとの合意形成がなされるかによって、スケジュールは変わってきます。仮に統合という結論になった場合、既存の校舎を使う場合、既存校舎の大規模なりニューアル工事を実施する場合、新築する場合によって変わります。

【質問 10】

体育館のエアコンが整備されると聞いている。統合された場合にエアコンの整備が無駄になってしまうのではないかと思う。統合後の跡地のビジョンはあるのか。

【事務局】

現状決まっていることはありません。

市教育委員会はより良い教育環境の実現を第一の目的に考えていますので、跡地の問題も大変重要だとは思いますが、一旦切り離して検討したいと考えています。

体育館の空調整備については、無駄とは考えていません。現在の子どもたちの教育環境の向上という視点で喫緊の課題と判断して整備するものです。

【質問 11】

令和 22 年以降の人口推計についてはどう考えているのか。

【事務局】

令和 22 年度以降の推計値は不明ですが、全国的な人口減少の中、子どもの数も減っていくため、このような減少傾向は続くのではないかと考えています。

【質問 12】

子どもの通学路の安全性について、市の施策として、通学路の見守りのボランティアを増やすことや防犯カメラを多く設置してほしい。

【事務局】

子どもの通学路の安全性については全国的な問題になっていると理解しています。市教育委員会としては、今回の学校の適正規模等の取組を進めるとともに、担当部署と連携していきたいと考えています。

【質問 13】

統合しても 1 クラス 35 人に満たないクラスがある場合どうするのか。

【事務局】

1 クラスの人数は県の基準で決まっており、市独自の基準を設けることは考えていません。岩成台中学校区だけでは適正規模が維持できない場合は、隣接する中学校区と合わせた検討をする必要があると考えています。

【質問 14】

先生の手数は県の予算で決まっていて、採用人数が限られている。県の基準があるので、春日井市独自の動きがとれないのか。

【事務局】

先ほどもご説明したとおり、クラス数に応じて配置される教員の人数が決まっています。ある程度の規模の学校であれば、学級数以上の先生が配置されることもありますが、市独自の人数配置をすることは予算の関係からも困難であり、県の基準で配置しています。

4 今後の進め方について

【事務局】

- ・岩成台中学校区の各小中学校で開催した意見交換会でいただいたご意見などを取りまとめた上で、次は岩成台中学校区全体の単位で、年内に 2 回目の意見交換会を開催したいと考えている。

- ・その後、岩成台中学校区で保護者や地域の代表の方、また、学校関係者などで構成する、学校づくりを検討するための組織を立ち上げ、学校の適正規模や適正配置について、具体的な検討を行っていきたいと考えている。
- ・次回の意見交換会の日程は、市ホームページでお知らせするほか、保護者の方へは Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

5 閉会

午後 7 時 45 分 閉会